

## 10. 当院における大腿骨頸部骨折の最近の状況（第三報）

労働者健康福祉機構 香川労災病院 リハ科<sup>1</sup> 整形外科<sup>2</sup> 田村クリニック<sup>3</sup>  
○高田 敏也<sup>1</sup>, 生熊 久敬<sup>1</sup>, 横山 良樹<sup>2</sup>, 前原 孝<sup>2</sup>, 田村 美和<sup>3</sup>

### 【はじめに】

大腿骨頸部骨折は高齢者の特徴的な外傷の一つである。要介護の状態におちいりやすいこともあって高齢化社会の大きな問題となってきた。われわれは1988年～1991年の当院での状況を第1報として、また1998年の当院での状況を第2報として院内雑誌に掲載した。今回は2005年および2008年～2009年の当院での状況をまとめて報告したい。

### 【対象】

2005年1月～12月までの1年間で当院にて入院治療を行った大腿骨頸部骨折患者は154例、そのうち60歳以上の症例141例、2008年1月～2009年12月の2年間で当院にて入院治療を行った大腿骨頸部骨折患者は240例、そのうち60歳以上の症例223例を対象に、また前 第1, 2報もふまえて検討を行った。

### 【結果】

第1報, 第2報, 2005年と平均在院日数は74日→46日→21.3日と減少してきたが2008年～2009年は逆に29日と増加した。

### 【考察】

当院の増改築, 病診連携, クリニカルパス, 地域連携診療計画管理料, 大腿骨頸部・転子部骨折診療ガイドラインも含めて評価, 今後の方針に役立たせたい。